

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	017400782		
法人名	有限会社オフィス石井		
事業所名	メイハウス グループホーム		
所在地	063-0022 札幌市西区平和2条6丁目1番5号		
自己評価作成日	令和2年1月21日	評価結果市町村受理日	令和2年3月4日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人間らしく生きる場所、又共に生きるために、職員で共有理念に基づいたケアを行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170400782-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170400782-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年2月14日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の優れている点をあげると、まず、利用者の心身の機能の維持向上に力を注いでいることである。体操は午前と午後時間帯を設け、スタッフと共に行う独自の体操とテレビ体操、アクティビティも絵本の読み聞かせや創作活動など、午前午後時間帯を設け変化を持たせている。食事の前には口腔体操で食事が美味しくスムーズな嚥下ができるようにし、調理では、その人の得意な分野を手伝ってもらい持てる力を引き出している。排泄面では、誰もが望むトイレでの排泄にこだわりを持って取り組んでいる。寝たきりの利用者も起きてトイレで用を足し、車イスの利用者には、自ら立ち上がることを意識つけて職員はそれを支えるようにしている。入浴では、シャワー浴の人にも安全のため職員2人、3人介助で浴槽に入れ、入浴の喜びを感じてもらおうよう支援している。次に、地域との交流の深さがあげられる。利用者は職員とともに町内会の各種行事に参加し交流を深めているが、法人代表が生まれ育った地で地域とのつながりも深く、近所から野菜の差し入れがあり、重度化のために行けなくなった神社からは利用者のために獅子舞が玄関先まで来てくれる。運営推進会議には町内会長はじめ民生委員、近隣の事業者などが駆けつけ助言している。また、健康面では、協力医の訪問診療、看護師の配置など適切な医療が受けられる体制が築かれ、これまでに数例の看取りも行っている。利用者は、職員の明るい笑顔と優しい言葉に支えられ、長年住み慣れた環境で重度になっても住み替えることなく安心して穏やかに暮らしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした独自の理念を作り、ホーム内に掲示し、スタッフ全員で理念に基づいたケアを行っている。	利用者の尊敬、尊厳と人権尊重の理念を掲げ、それらを達成するための「職員の心構え」を掲示している。申し送り時や会議で確認するとともに、毎日目に触れる「連絡ノート」に記載し、意識してその実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ご近所から、畑で作った野菜を頂いたり、地域行事、お祭り等に参加している。	町内清掃・資源回収・夏祭りなど町内会行事に参加している。重度化のため行けなくなった西野神社からは玄関前まで獅子舞が訪れている。法人代表(管理者)が生まれ育った地域であり、日常的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ、情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会等も参加してくれている。要望意見等が出され、検討を行っている。	利用者や家族、町内会長、包括支援センター職員、民生委員、近隣の事業者などが出席し定期的開催している。活動状況報告と出席者からの評価・要望・助言など、意見交換を行い運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは、定期の連絡会で相互の意見交換が行われている。適宜連絡を取っている。	区の管理者連絡会の代表となっており、積極的な情報交換に努めている。定期的な区内グループホームの状況取りまとめと報告、生活保護担当者の来訪時の状況説明、相談や疑問には直接担当者のもとへ足を運ぶなど、行政との信頼と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を設け、社内研修を行いスタッフの共通意識を図っている。	身体拘束等適正化委員会を3か月に1回開催している。身体拘束廃止についての外部研修を受講し、全職員への伝達研修を通じ身体拘束への理解を深めている。言葉による抑制についても会議や職員同士で気を付けている。玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に研修等を行いスタッフの共通意識を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で、必要な利用者には活用できるよう学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は、ホーム内見学や問点等を十分に話し合い、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の喜び、悲しみを共感し理解できる様に努めている。又外出、外泊も自由にできる様にし、家族の訪問等も自由になっている。	家族の来訪も多く、来訪時には日々の状況を伝え、意見・要望を聞くように努めている。毎月、「ホーム便り」を作成し職員の手紙を添えて利用者の暮らしの様子を知らせている。玄関に意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度職員会議及び研修を行い、職員の意見を十分に反映している。	日常的に代表(管理者)・ホーム長と話し合える雰囲気であり、会議の中でも職員からの意見の引き出しに努めている。毎年、年間計画を作成し担当者を決めるので職員の意見が反映され、他の職員の率先した協力が得られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当等や、職員個々の得意な事を生かす場を作り、向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場に於ける月一回の全体会議での研修、他機関の研修の参加、その他自己学習(資格取得等)の応援、又個々に必要と感じた時には個別に面談している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会や、管理者連絡会での勉強会、研修に参加している。今年度西区GH管理者連絡会の代表を務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と会い、色々な話をする場を設けている。自宅へ訪問し、相談を受ける時もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた際は、必ず見学を勧め、来られない方は、電話での相談等、ゆっくりと話を聞くことにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状、家族等の聞き取り、必要な支援を提供できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、散歩、イベント等の活動において、スタッフと利用者が一緒に行くことを大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常を、家族が来訪された時や電話等でお知らせしている。近況を伝え、ご家族と相談し問題解決等している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お誕生会、行事等に本人の大切にしてきた方々をお誘いし、楽しんで頂いたりしている。ご家族の協力のもと本人の行きたい場所等への外出をさせていただいている。	家族や友人の来訪時には居室や居間で寛いで過ごしてもらい、帰りには玄関まで見送り再訪を促すなど、これまでの関係が継続されるよう努めている。行けなくなった神社のお祭りには獅子舞に来てもらっている。中には家族と共に小樽の美容院に通う利用者も見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性等を考慮しながら、利用者同士の会話の話題提供に努め、見守りの中で、その場に応じた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所等へ移られても、ご家族の相談を受けたり、情報の共有を図るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情等からその意思を推し測ったり、確認する様にし、意思疎通が困難な方には、本人の視点に立って話し合っている。	日々の会話の中から思いや意向を引き出すよう心掛けており、表情や様子からも意向を推し測っている。職員皆で利用者の出来ること出来ないことを検討し、把握したことは個別の介護記録に記載して本人本位の支援に繋がるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から聞き取りを行い、日々の生活の中で環境を整えていく様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人に合った生活が送れる様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの日頃の関わりの中での思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ミーティングで職員全員で意見交換している。	毎月、全利用者のモニタリングを職員全員で検討している。介護計画は、日頃からの本人・家族の意向や希望を踏まえ、医師の意見を取り入れ、6か月毎に見直しを行っている。状況に変化のある時は随時見直し、個々の現状に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、日々の暮らしや様子を記録している。勤務開始時には、申し送りをし情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の日々の変化する状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事等に参加し、地域とのつながりを持つようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医師、病院へ受診している。基本的には、家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が同行している。	協力医療機関による月2回の訪問診療、24時間連携体制が築かれている。かかりつけ医の受診には同行の家族に情報の提供が行われ、受診結果を共有している。看護師が週1回利用者の健康管理を行っており、24時間の連絡体制を確保している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員とで情報を共有するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは密に情報交換、相談している。職員も面談に行き、利用者の心の安定に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合、対応について説明、都度家族と話し合っている。又、本人の意向をふまえた上、ホームでできる事できない事の説明を行い、納得した上で医療との連携を図っている。	契約時に、「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。重度化した時は、家族、医師を交え状況に応じ何度も話し合いを持ち、看取りを行っている。これまで数例の看取りを経験しており、職員はターミナル研修を受講し、看取りに対応できる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、ヒヤリハット報告を活用しサービスの改善に努めている。救急救命講習を受講、緊急マニュアルを掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を実施し、消防からの指導や、消火実演等も行っている。	年2回、地域の人の参加を得て昼・夜間想定での防災訓練を行っている。水・食糧・懐中電灯・毛布・ポータブルストーブなどを備蓄し、連絡網の整備・避難経路・避難場所の周知を行っている。	自然災害について、水害・がけ崩れの恐れはないが、地震は突発的に発生するので、常日頃から身を守る方法の周知、落下物の点検、地震発生時の訓練の実施を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーに配慮した支援を心掛けている。	理念に、「人生の先輩として尊敬し、人権を尊重した支援」を謳っており、笑顔で優しい言葉かけなどを職員の心構えとしている。トイレの誘導にあたってはそっと言葉かけするなどプライバシーに配慮し、接遇研修、会議などで厳しく指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には表情を読み取る等生活の中で本人の好み等を考慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に考慮しながら、その時々本人の気持ちを尊重する様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で決めており、職員は見守り手伝う様にしている。訪問美容室を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛付け、片付け等できる範囲で利用者と一緒に行動し、食事と一緒にしている。利用者の嗜好を理解し対応している。	利用者の好みを取り入れた献立を作成している。旬の食材や菜園での採れたての野菜を使い、一緒に食事作りなどを行っている。行事食は手作りに拘り、バーベキューも取り入れ楽しい食事となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の摂取量を把握し、記録している。トロミや刻み食等個々の状況に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりがどこまでできるか把握し、それに基づき支援している。義歯等のケアも支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のチェック表を使用し、排泄パターンを把握し対応している。	トイレでの排泄を基本とし、全員トイレでの排泄を目指している。寝たきりの利用者は日中トイレに起きてもらい、車イスの利用者には自から立ち上がることを意識づけて支え、残存能力の引き出しに努めている。昼夜で介護用品を変えるなど、その人に合った介護用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、間食時に水分等を摂り、便秘予防に取り組む、下剤の服用は医師に相談しながら対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状況や状態に合わせて予定を立てているが、本人の希望等により柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本としている。シャワー浴の利用者にも、安全のため職員2人、3人介助で浴槽に入浴の喜びを感じてもらっている。入浴中はお話や、名湯の入浴剤を使って楽しめるよう工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、離床と適度な活動を促している。本人のペースに合わせてながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用、用法、用量について薬局からもらった説明書を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが、何に興味があるか大切にしている。調理、掃除等職員と行っている。農作物の収穫をしたりもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、外食、買いものに出掛ける機会を設けている。	利用者の高齢化・介護度の高まりにより外出行事は困難となっているが、心身の活性化に繋がるよう、日常的に近隣公園への散歩、車イスを押しての近くの花見、菜園の花・野菜の生育を眺めながらの日光浴など、努めて外気に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使用については、本人、ご家族と話しながら対応している。預かり金ノートを記入し個々に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があった時は、その都度対応できるようにしている。年賀状等、利用者の作品をご家族に送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえる様、利用者と共に花や絵を折り紙で作成し、手作りの物を飾ったり、日常生活で撮った写真を貼り出している。	明るくて広いリビングとダイニングは温度・湿度も程よく管理され快適である。壁には利用者とともに作った季節の飾りが飾られ、家庭的な雰囲気を醸し出している。窓からは広い庭の花・野菜・果樹が眺められ、その生育と四季の移り変わりが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽を日常で流したり、季節の草花等身近に感じられる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、落ち着けるよう家庭的な雰囲気になっています。使用する家具等は自由に持ち込んで頂いています。	居室にはクローゼットが設置され室内の整理・整頓に役立っている。使い慣れたタンスやテレビ、仏壇など思い思いに持ち込み、家族の写真、手芸作品、縫いぐるみなどで飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリー、エレベーターを設置している。「トイレ」の案内を見やすくし、認識ができない方は、職員が案内する。		